




学位論文の調査要旨

専攻名 (又は推薦専攻名)	地域イノベーション学専攻	氏名	川見 夕貴
学位論文題目	高等教育機関とコミュニティの協働の構造 —プロジェクト型音楽活動を事例として—		
調査委員会	委員長	松田 裕子	
	委員	小林 一成	
	委員	加藤 貴也	
調査結果の要旨			
<p>本論文は、実践現場における課題解決を目的に、プロジェクト型音楽活動を主たる分析の対象として、高等教育機関とコミュニティの協働の在り方を論じたものである。</p> <p>具体的な分析手法は、アクションリサーチ的アプローチに依拠し、まず第1章において、三重大学 COE (B) プロジェクトが開発した「総合モデル」をベースとして、論文提出者自身の実践経験からその可能性と課題が示された。続く第2章では、総合モデルの枠組みに基づき実施されたケーススタディ分析を通じて、大学教員を軸とするメンバーの役割や協働の変容に着目し、総合モデルでは捨象されていた B-1 領域までの全領域を包含する、本来あるべき姿としての「協働モデル」が改良型として提示された。</p> <p>第3章では、プロジェクト型音楽活動の企画・実施を通じて、ウィリアムズ症候群の患者・家族を対象とした音楽キャンプの関係者から構成される「コミュニティ」を事例とした協働モデルの有用性が確認され、終章となる第4章では、高等教育機関とコミュニティの協働の構造、および高等教育機関によるコミュニティの課題解決への寄与が明らかにされた。</p> <p>上述の通り、論文提出者自身によるプロジェクト型音楽活動の実践による省察を通じた分析に、研究上の独自性が認められる一方、本論文の事例分析により得られた結果が、オンライン実施でなくリアル開催でも再現性を持つか、また音楽キャンプ以外の活動にどれだけの汎用性があるかについては未解明であり、参加メンバーの成長をはじめとする種々の条件の変化を加味した理論モデルの構築が今後の残された課題として指摘される。</p> <p>以上、本論文の研究成果は、地域イノベーション学の研究として有意義であり、博士(学術)の学位を授与するにふさわしく、合格と判定する。</p>			